Fergus McCaffrey

Seeing without a Seer

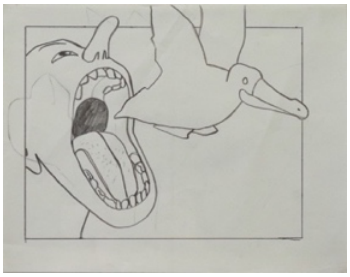
ファーガス・マカフリー東京
2023 年 7 月 4 日– 9 月 16 日

Cy Twombly, *Untitled, 1963*

ファーガス・マカフリー東京は 8 人のアーティストによるドローイング展「Seeing without a Seer」を開催致します。
いつの時代もアーティストたちは、パターン化された制作活動と浸透してしまった習慣から解放され、前例にとらわれない新鮮で開かれた景色を作品に取り込むための方法として「ディスキリング」（熟練した技術の解体）を模索してきました。日本の重要な哲学者である西田幾多郎(1870 – 1945)は仏教の視点を取り入れて自我を考察しながら、キリスト教に根付いた西洋の形而上学的伝統の探求と拡張に生涯を捧げました。西田は度々、合理的思考と自意識を取り払うことで作家の権威が新たな境地に服従し、無の純粋経験に到達する「見るものなくして見る(Seeing without a Seer)」という現象について語っています。

ドローイングはしばしば、作家の手と意識が最も直接的に繋がる表現と考えられ、西東洋を問わず、世代を超えアーティスト達は様々な意識と物理的な手法を用い、未開の創造的な領域に足を踏み入れようとしてきました。サイ・トゥオンブリーの左手のドローイング、2 メートルの柄の筆で描かれる中西のドローイングにも通ずるような、本展は慣れ親しまれた方法を離れ、新たな地平を追求した 3 世代のアーティストを紹介します。

[出展アーティスト]
ジョー・ブラッドリー、セシリー・ブラウン、サム・フランシス、
マーシャ・ハフィフ、中西夏之、ブライス・マーデン、
サイ・トゥオンブリー、吉原治良


Joe Bradley, *Untitled,* 2023

ファーガス・マカフリーについて
ファーガス・マカフリーは 2006 年の設立以来、元永定正、白髪一雄、高松次郎など戦後日本美術の国際的な評価を確立するうえで中心的な役割を担ってきました。マーシャ・ハフィフ、ビルギット・ユルゲンセン、リチャード・ノナス、ジグマー・ポルケ、カロル・ラマなど独創性に富んだ気鋭の西洋作家の作品展示も行なっています。日本の美術や文化と深く沿うため 2018 年 3 月、ロ バート・ライマン展を皮切りに東京・表参道にスペースを開設。ニューヨーク、東京、サンバルテルミ島の 3 箇所にギャラリースペースを持つ。

プレスに関するお問い合わせ：
Tel: 03 6447 2660
Email: tokyo@fergusmccaffrey.com